

## 使用上の注意改訂のお知らせ

2011年9月


処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

非イオン性 MRI 用造影剤

**プロハンス<sup>®</sup> 静注 5mL**  
**プロハンス<sup>®</sup> 静注 10mL**  
**プロハンス<sup>®</sup> 静注 15mL**  
**プロハンス<sup>®</sup> 静注 20mL**  
**プロハンス<sup>®</sup> 静注シリンジ 13mL**  
**プロハンス<sup>®</sup> 静注シリンジ 17mL**

製造販売元   ブラッコ・エーザイ株式会社  
東京都文京区大塚3-11-6

販売元  エーザイ株式会社  
東京都文京区小石川4-6-10

提携先  ブラッコ インターナショナル

〈ガドテリドール注射液〉

このたび標記製品の添付文書を以下のとおり改訂致しました。今後のご使用に際しましては、下記内容をご参照いただき、本書を適正使用情報としてご活用いただきますようお願い申し上げます。

### 改訂内容ダイジェスト（詳細はお知らせ本文をご参照下さい）

改訂項目	改訂内容	備考
警告	国内の全ガドリニウム造影剤共通の注意喚起として「重篤な腎障害のある患者では、ガドリニウム造影剤による腎性全身性線維症の発現のリスクが上昇することが報告されている」ことを追加記載しました。	薬食安通知
慎重投与	警告欄の追加記載に関連して、「腎障害のある患者又は腎機能が低下しているおそれのある患者」を追加記載しました。	
重要な基本的注意	1) 警告欄の追加記載に関連して、腎障害のある患者又は腎機能が低下しているおそれのある患者に本剤を投与する場合の注意を追加記載しました。 また、本剤の投与を避け、他の検査法で代替することが望ましい患者について具体的に記載しました。 2) 類薬において遅発性副作用（遅発性のショック、アナフィラキシー様症状）があらわれるとの報告があることから注意を追加記載しました。	
副作用 (重大な副作用)	警告欄の追加記載に関連して、その他の注意の項に記載していた腎性全身性線維症（Nephrogenic Systemic Fibrosis, NSF）を追加記載しました。	自主改訂
副作用 (重大な副作用)	ショック、アナフィラキシー様症状の一症状として「意識消失」を追加記載しました。	
副作用 (その他の副作用)	副作用集積状況に基づき「血圧上昇」、「一過性の意識消失」、「倦怠感」を追加記載しました。	
その他の注意	重大な副作用として記載したことに伴い、腎性全身性線維症（Nephrogenic Systemic Fibrosis, NSF）に関する記載を削除しました。	

使用上の注意改訂に関する本改訂内容は、医薬品安全対策情報（Drug Safety Update）No.203号（2011年10月発送予定）にも掲載される予定です。

★製品に関するお問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン  
フリーダイヤル 0120-419-497 9～18時（土、日、祝日9～17時）  
★弊社製品情報は、弊社 HP（<http://www.eisai.co.jp>）でご覧いただけます。

[使用上の注意：改訂箇所及び改訂理由]

1. 薬食安通知による改訂

《警告、慎重投与、重要な基本的注意、副作用（重大な副作用）》

(改訂部分抜粋)

下線部分を改訂致しました。

改 訂 後	改 訂 前
<p><b>【警 告】</b></p> <p>1. <u>本剤を脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳・脊髄腔内には投与しないこと。</u></p> <p>2. <u>重篤な腎障害のある患者では、ガドリニウム造影剤による腎性全身性線維症の発現のリスクが上昇することが報告されているので、腎障害のある患者又は腎機能が低下しているおそれのある患者では、十分留意すること。</u>  <u>〔「慎重投与」、「重要な基本的注意」の項参照〕</u></p>	<p><b>【警 告】</b></p> <p>本剤を脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳・脊髄腔内には投与しないこと。</p>
<p><b>1. 慎重投与</b></p> <p>(1)～(4) (変更なし)</p> <p>(5) <u>腎障害のある患者又は腎機能が低下しているおそれのある患者</u></p> <p>(6) <u>高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕</u></p> <p>(7) <u>小児〔「小児等への投与」の項参照〕</u></p>	<p><b>1. 慎重投与</b></p> <p>(1)～(4)略</p> <p>(5) <u>高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕</u></p> <p>(6) <u>小児〔「小児等への投与」の項参照〕</u></p>
<p><b>2. 重要な基本的注意</b></p> <p>(1) <u>ショック、アナフィラキシー様症状等の重篤な副作用が発現することがあるので、本剤の投与にあたっては、ショック、アナフィラキシー様症状等の発現に備え、救急処置の準備を行うこと。また、<u>類薬において投与開始より1時間～数日後にも遅発性副作用（発熱、発疹、悪心、血圧低下、呼吸困難等）があらわれるとの報告があるので、投与後も患者の状態を十分に観察すること。患者に対して、上記の症状があらわれた場合には速やかに主治医等に連絡するよう指導するなど適切な対応をとること。</u></u></p> <p>(2) (変更なし)</p> <p>(3) <u>腎障害のある患者又は腎機能が低下しているおそれのある患者に本剤を投与する場合には、患者の腎機能を十分に評価した上で慎重に投与すること。</u></p> <p>(4) <u>長期透析が行われている終末期腎障害、eGFR (estimated glomerular filtration rate：推算糸球体ろ過値) が30mL/min/1.73m<sup>2</sup>未満の慢性腎障害、急性腎不全の患者では、ガドリニウム造影剤による腎性全身性線維症の発現のリスクが上昇することが報告されているので、本剤の投与を避け、他の検査法で代替することが望ましい。</u></p> <p>(5) <u>通常、コントラストは本剤投与直後から約45分後まで持続する。追加投与によってコントラストの向上が得られるとは限らないので、コントラストが持続している場合は漫然と追加投与しないこと（転移性脳腫瘍が疑われる患者を除く）。<u>転移性脳腫瘍が疑われる患者への追加投与は、初回投与の結果をみた上で判断すること。</u></u></p>	<p><b>2. 重要な基本的注意</b></p> <p>(1) <u>ショック、アナフィラキシー様症状等の重篤な副作用が発現することがあるので、本剤の投与にあたっては、ショック、アナフィラキシー様症状等の発現に備え、救急処置の準備を行うとともに、本剤の投与後も患者の状態を十分に観察すること。</u></p> <p>(2)略</p> <p>(3) <u>通常、コントラストは本剤投与直後から約45分後まで持続する。追加投与によってコントラストの向上が得られるとは限らないので、コントラストが持続している場合は漫然と追加投与しないこと（転移性脳腫瘍が疑われる患者を除く）。<u>転移性脳腫瘍が疑われる患者への追加投与は、初回投与の結果をみた上で判断すること。</u></u></p>

注：~~~~部自主改訂（4頁の自主改訂の対比表には記載を省略）

改 訂 後	改 訂 前
<p><b>3. 副作用</b>  <b>(1) 重大な副作用</b>            1) (4頁の自主改訂参照)            2) (変更なし)  <b>3) 腎性全身性線維症 (Nephrogenic Systemic Fibrosis, NSF)</b> <u>外国において、重篤な腎障害のある患者への本剤使用後に、腎性全身性線維症を発現した症例が報告されているので、投与後も観察を十分に行い、皮膚の掻痒、腫脹、硬化、関節の硬直、筋力低下等の異常の発生には十分留意すること。</u></p>	<p><b>3. 副作用</b>  <b>(1) 重大な副作用</b>            1)～2)略</p>

**改訂理由**

平成23年9月20日付厚生労働省医薬食品局安全対策課課長通知(薬食安通知) 薬食安発0920第1号に基づき、使用上の注意を上記のとおり改訂致しました。

## 1) 腎性全身性線維症 (Nephrogenic Systemic Fibrosis, NSF) について

【【警告】2.、慎重投与(5)、重要な基本的注意(3)、(4)、副作用(重大な副作用)3】

海外で、ガドリニウム造影剤投与後のNSF発現のリスクを最小化するための措置が実施されたことに伴い、国内でも同様の措置が必要と判断し、使用上の注意を改訂しました。なお、現在までに当該製品では、国内で単剤使用後にNSFが発現したとの報告はございません。

## 2) 遅発性副作用(遅発性のショック、アナフィラキシー様症状)について [重要な基本的注意(1)]

他のガドリニウム造影剤では国内症例が報告されていることを考慮し、ガドリニウム造影剤使用における重要な情報であることから、使用上の注意を改訂しました。なお、当該製品では薬剤投与開始より1時間～数日後に発現したことが明確な遅発性のショック、アナフィラキシー様症状の国内での報告はございません。

## 2. 自主改訂

### 《副作用（重大な副作用、その他の副作用）、その他の注意》

(改訂部分抜粋)

下線部分を改訂、取消線部分を削除致しました。

改 訂 後	改 訂 前																																																																																
<p><b>3. 副作用</b>  <b>(1)重大な副作用</b>            1)ショック、アナフィラキシー様症状 ショック (0.1%未満) を起こすことがある。呼吸困難、失神、昏迷、意識消失、呼吸停止、心停止、全身潮紅、血管浮腫、蕁麻疹等のアナフィラキシー様症状を伴うことがあるので、本剤投与後も観察を十分に行い、異常が認められた場合には、適切な処置を行うこと〔類薬のガドリニウム MRI 用造影剤 (ガドペンテト酸ジメグルミン) で、気管支喘息の患者では、それ以外の患者よりも高い頻度でショック、アナフィラキシー様症状等の重篤な副作用が発現するおそれのあることが報告されている〕。            2) (変更なし)            3) (3頁の薬食安通知による改訂参照)</p>	<p><b>3. 副作用</b>  <b>(1)重大な副作用</b>            1)ショック、アナフィラキシー様症状 ショック (0.1%未満) を起こすことがある。呼吸困難、失神、昏迷、呼吸停止、心停止、全身潮紅、血管浮腫、蕁麻疹等のアナフィラキシー様症状を伴うことがあるので、本剤投与後も観察を十分に行い、異常が認められた場合には、適切な処置を行うこと〔類薬のガドリニウム系 MRI 用造影剤 (ガドペンテト酸ジメグルミン) で、気管支喘息の患者では、それ以外の患者よりも高い頻度でショック、アナフィラキシー様症状等の重篤な副作用が発現するおそれのあることが報告されている〕。            2)略</p>																																																																																
<p><b>3. 副作用</b>  <b>(2)その他の副作用</b>            略</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>0.1～5%未満</th> <th>0.1%未満</th> <th>頻度不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過敏症</td> <td>蕁麻疹</td> <td>発疹、潮紅、ほてり、痒痒感</td> <td></td> </tr> <tr> <td>循環器</td> <td></td> <td>動悸</td> <td>血圧低下、血圧上昇</td> </tr> <tr> <td>呼吸器</td> <td></td> <td>咳嗽、くしゃみ</td> <td>嗆声、咽喉頭症状、鼻炎、喘息</td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>嘔気・嘔吐</td> <td>口渇</td> <td>腹痛</td> </tr> <tr> <td>精神神経系</td> <td></td> <td>眩暈、頭痛、しびれ</td> <td>振戦、一過性の意識消失</td> </tr> <tr> <td>血液系</td> <td>白血球増多</td> <td>血小板増加</td> <td></td> </tr> <tr> <td>肝臓・胆管系</td> <td>肝機能異常、ALT (GPT) の上昇、AST (GOT) の上昇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>投与部位</td> <td></td> <td>血管痛</td> <td>疼痛</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>熱感、気分不良、胸痛、血清鉄低下、血清カリウム上昇、BUN 上昇、血中クレアチニン上昇</td> <td>冷感、多汗、味覚異常、眼の異常</td> </tr> </tbody> </table>		0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明	過敏症	蕁麻疹	発疹、潮紅、ほてり、痒痒感		循環器		動悸	血圧低下、血圧上昇	呼吸器		咳嗽、くしゃみ	嗆声、咽喉頭症状、鼻炎、喘息	消化器	嘔気・嘔吐	口渇	腹痛	精神神経系		眩暈、頭痛、しびれ	振戦、一過性の意識消失	血液系	白血球増多	血小板増加		肝臓・胆管系	肝機能異常、ALT (GPT) の上昇、AST (GOT) の上昇			投与部位		血管痛	疼痛	その他		熱感、気分不良、胸痛、血清鉄低下、血清カリウム上昇、BUN 上昇、血中クレアチニン上昇	冷感、多汗、味覚異常、眼の異常	<p><b>3. 副作用</b>  <b>(2)その他の副作用</b>            略</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>0.1～5%未満</th> <th>0.1%未満</th> <th>頻度不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過敏症</td> <td>蕁麻疹</td> <td>発疹、潮紅、ほてり、痒痒感</td> <td></td> </tr> <tr> <td>循環器</td> <td></td> <td>動悸</td> <td>血圧低下</td> </tr> <tr> <td>呼吸器</td> <td></td> <td>咳嗽、くしゃみ</td> <td>嗆声、咽喉頭症状、鼻炎、喘息</td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>嘔気・嘔吐</td> <td>口渇</td> <td>腹痛</td> </tr> <tr> <td>精神神経系</td> <td></td> <td>眩暈、頭痛、しびれ</td> <td>振戦</td> </tr> <tr> <td>血液系</td> <td>白血球増多</td> <td>血小板増加</td> <td></td> </tr> <tr> <td>肝臓・胆管系</td> <td>肝機能異常、ALT (GPT) の上昇、AST (GOT) の上昇</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>投与部位</td> <td></td> <td>血管痛</td> <td>疼痛</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>熱感、気分不良、胸痛、血清鉄低下、血清カリウム上昇、BUN 上昇、血中クレアチニン上昇</td> <td>冷感、多汗、味覚異常、眼の異常</td> </tr> </tbody> </table>		0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明	過敏症	蕁麻疹	発疹、潮紅、ほてり、痒痒感		循環器		動悸	血圧低下	呼吸器		咳嗽、くしゃみ	嗆声、咽喉頭症状、鼻炎、喘息	消化器	嘔気・嘔吐	口渇	腹痛	精神神経系		眩暈、頭痛、しびれ	振戦	血液系	白血球増多	血小板増加		肝臓・胆管系	肝機能異常、ALT (GPT) の上昇、AST (GOT) の上昇			投与部位		血管痛	疼痛	その他		熱感、気分不良、胸痛、血清鉄低下、血清カリウム上昇、BUN 上昇、血中クレアチニン上昇	冷感、多汗、味覚異常、眼の異常
	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明																																																																														
過敏症	蕁麻疹	発疹、潮紅、ほてり、痒痒感																																																																															
循環器		動悸	血圧低下、血圧上昇																																																																														
呼吸器		咳嗽、くしゃみ	嗆声、咽喉頭症状、鼻炎、喘息																																																																														
消化器	嘔気・嘔吐	口渇	腹痛																																																																														
精神神経系		眩暈、頭痛、しびれ	振戦、一過性の意識消失																																																																														
血液系	白血球増多	血小板増加																																																																															
肝臓・胆管系	肝機能異常、ALT (GPT) の上昇、AST (GOT) の上昇																																																																																
投与部位		血管痛	疼痛																																																																														
その他		熱感、気分不良、胸痛、血清鉄低下、血清カリウム上昇、BUN 上昇、血中クレアチニン上昇	冷感、多汗、味覚異常、眼の異常																																																																														
	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明																																																																														
過敏症	蕁麻疹	発疹、潮紅、ほてり、痒痒感																																																																															
循環器		動悸	血圧低下																																																																														
呼吸器		咳嗽、くしゃみ	嗆声、咽喉頭症状、鼻炎、喘息																																																																														
消化器	嘔気・嘔吐	口渇	腹痛																																																																														
精神神経系		眩暈、頭痛、しびれ	振戦																																																																														
血液系	白血球増多	血小板増加																																																																															
肝臓・胆管系	肝機能異常、ALT (GPT) の上昇、AST (GOT) の上昇																																																																																
投与部位		血管痛	疼痛																																																																														
その他		熱感、気分不良、胸痛、血清鉄低下、血清カリウム上昇、BUN 上昇、血中クレアチニン上昇	冷感、多汗、味覚異常、眼の異常																																																																														
項目ごと削除	<p><b>8. その他の注意</b>            外国で、重篤な腎障害のある患者において、本剤使用後に腎性全身性線維症 (Nephrogenic Systemic Fibrosis, NSF) を発現した症例が報告されている。</p>																																																																																

#### 改訂理由

ショック、アナフィラキシー様症状の一症状として「意識消失」を副作用（重大な副作用）1)に追加記載し、記載整備しました。また、副作用集積状況を検討した結果、血圧上昇、一過性の意識消失、倦怠感を副作用（その他の副作用）に追加記載しました。

また、重大な副作用の項に腎性全身性線維症 (Nephrogenic Systemic Fibrosis, NSF) に関する注意を記載したことに伴い、その他の注意の項から腎性全身性線維症 (Nephrogenic Systemic Fibrosis, NSF) に関する記載を削除しました。

## 改訂後の「使用上の注意」全文（下線部 改訂箇所）

### 【警告】

1. 本剤を脳・脊髄腔内に投与すると重篤な副作用が発現するおそれがあるので、脳・脊髄腔内には投与しないこと。
2. 重篤な腎障害のある患者では、ガドリニウム造影剤による腎性全身性線維症の発現のリスクが上昇することが報告されているので、腎障害のある患者又は腎機能が低下しているおそれのある患者では、十分留意すること。  
〔「慎重投与」、「重要な基本的注意」の項参照〕

### 【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

1. 本剤投与により重篤な副作用がみられた患者
2. 本剤の成分又はガドリニウム造影剤に対し過敏症の既往歴のある患者

### 【原則禁忌】（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）

1. 一般状態の極度に悪い患者
2. 気管支喘息のある患者  
〔アナフィラキシー様反応があらわれることがある。〕
3. 重篤な腎障害のある患者  
〔本剤の主要排泄経路であり、排泄遅延と腎機能を悪化させるおそれがある。〕
4. 初回投与時に副作用がみられ、追加投与を行う必要がある患者

### 【使用上の注意】

#### 1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) アレルギー性鼻炎、発疹、蕁麻疹等を起こしやすいアレルギー体質を有する患者
- (2) 両親、兄弟に気管支喘息、アレルギー性鼻炎、発疹、蕁麻疹等を起こしやすいアレルギー体質を有する患者
- (3) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- (4) 既往歴を含めて、痙攣、てんかん及びその素質のある患者〔痙攣があらわれることがある。〕
- (5) 腎障害のある患者又は腎機能が低下しているおそれのある患者
- (6) 高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕
- (7) 小児〔「小児等への投与」の項参照〕

#### 2. 重要な基本的注意

- (1) ショック、アナフィラキシー様症状等の重篤な副作用が発現することがあるので、本剤の投与にあたっては、ショック、アナフィラキシー様症状等の発現に備え、救急処置の準備を行うこと。また、類薬において投与開始より1時間～数日後にも遅発性副作用（発熱、発疹、悪心、血圧低下、呼吸困難等）があらわれるとの報告があるので、投与後も患者の状態を十分に観察すること。患者に対して、上記の症状があらわれた場合には速やかに主治医等に連絡するよう指導するなど適切な対応をとること。

- (2) 本剤の投与にあたっては、気管支喘息等のアレルギー体質について十分な問診を行うこと。
- (3) 腎障害のある患者又は腎機能が低下しているおそれのある患者に本剤を投与する場合には、患者の腎機能を十分に評価した上で慎重に投与すること。
- (4) 長期透析が行われている終末期腎障害、eGFR（estimated glomerular filtration rate：推算糸球体ろ過値）が30mL/min/1.73m<sup>2</sup>未満の慢性腎障害、急性腎不全の患者では、ガドリニウム造影剤による腎性全身性線維症の発現のリスクが上昇することが報告されているので、本剤の投与を避け、他の検査法で代替することが望ましい。
- (5) 通常、コントラストは本剤投与直後から約45分後まで持続する。追加投与によってコントラストの向上が得られるとは限らないので、コントラストが持続している場合は漫然と追加投与しないこと（転移性脳腫瘍が疑われる患者を除く）。  
転移性脳腫瘍が疑われる患者への追加投与は、初回投与の結果をみた上で判断すること。

#### 3. 副作用

##### 副作用の概要

総症例7,992例中、191例（2.39%）の副作用が報告されている。主な副作用は、嘔気86件（1.08%）、嘔吐34件（0.43%）、ALT（GPT）の上昇13件（0.16%）、肝機能異常10件（0.13%）、蕁麻疹9件（0.11%）、AST（GOT）の上昇9件（0.11%）、白血球増多9件（0.11%）等であった。（再審査終了時）

##### (1) 重大な副作用

- 1) ショック、アナフィラキシー様症状 ショック（0.1%未満）を起こすことがある。呼吸困難、失神、昏迷、意識消失、呼吸停止、心停止、全身潮紅、血管浮腫、蕁麻疹等のアナフィラキシー様症状を伴うことがあるので、本剤投与後も観察を十分に行い、異常が認められた場合には、適切な処置を行うこと〔類薬のガドリニウムMRI用造影剤（ガドペンテト酸ジメグルミン）で、気管支喘息の患者では、それ以外の患者よりも高い頻度でショック、アナフィラキシー様症状等の重篤な副作用が発現するおそれのあることが報告されている。〕
- 2) 痙攣発作 痙攣発作（0.1%未満）があらわれることがあるので、発現した場合はフェノバルビタール等バルビツール酸誘導体又はジアゼパムを投与するなど、適切な処置を行うこと。
- 3) 腎性全身性線維症（Nephrogenic Systemic Fibrosis, NSF） 外国において、重篤な腎障害のある患者への本剤使用後に、腎性全身性線維症を発現した症例が報告されているので、投与後も観察を十分に行い、皮膚の掻痒、腫脹、硬化、関節の硬直、筋力低下等の異常の発生には十分留意すること。

##### (2) その他の副作用

下記のような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
過敏症	蕁麻疹	発疹、潮紅、ほてり、掻痒感	
循環器		動悸	血圧低下、血圧上昇
呼吸器		咳嗽、くしゃみ	嘔声、咽喉頭症状、鼻炎、喘息
消化器	嘔気・嘔吐	口渇	腹痛
精神神経系		眩暈、頭痛、しびれ	振戦、一過性の意識消失
血液系	白血球増多	血小板増加	
肝臓・胆管系	肝機能異常、ALT (GPT)の上昇、AST (GOT)の上昇		
投与部位		血管痛	疼痛
その他		熱感、気分不良、胸痛、血清鉄低下、血清カリウム上昇、BUN 上昇、血中クレアチニン上昇	冷感、多汗、味覚異常、眼の異常、倦怠感

#### 4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので患者

の状態を観察しながら慎重に投与すること。

#### 5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

(2)授乳中の婦人に投与する場合には、授乳を避けさせること。[動物実験(ラット、静脈内投与)で乳汁中に移行することが報告されている。]

#### 6. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

#### 7. 適用上の注意

(1)投与経路

脳・脊髄腔内投与は行わないこと。

(2)投与時

1)静脈内投与により血管痛があらわれることがある。

2)誤って血管外に造影剤が漏出した場合には、発赤、腫脹、水疱、疼痛等があらわれることがあるので、注入時に十分注意すること。

(3)開封後

1回の検査にのみ使用し、余剰の溶液は廃棄すること。